

三育だより

2025年3月24日発行

2024年度第3号

学校法人三育学院 東京三育小学校

〒177-0053 練馬区関町南2-8-4

TEL 03-3920-2450

URL <https://www.tokyosaniku.ed.jp/>



校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

「キリストにつながる若枝(卒業式式辞より抜粋)」 学校長 平田 理(ひらた まこと)

皆様は卒業にあたり、ヨハネによる福音書15章にある、イエス様のたとえ話から「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(15章5節)を、献身を現わす聖書の言葉として選びました。

卒業祈禱週は「23本の若枝」という総テーマの下、ひとり一人が个性的に、23の異なるストーリー、体験的な学びを証しました。それぞれの心の中で芽生えた願いや希望の中に、神様への「信頼」と「祈り」が感じられ、嬉しい時間でした。

「イエス様はぶどうの木、私たちはその枝」。まず、枝の役割は幹とつながり養分を得て枝を成長させることです。幹なるイエス様から命と愛の養分を十分に受けることが大切です。更に、枝である皆様には実を結ぶ役割があります。イエス様が期待している実は「愛、喜び、平和、忍耐、親切、善意、誠実、柔和、自制などの様々な実です(ガラテヤの信徒への手紙 5章22～23節)。同じ時間を過ごした仲間が異なる体験をしたように、同じ形である必要はありません。笑顔が素敵な人、忍耐強い人、いつも親切な人、慰め上手な人、友達をいつも繋いでくれる人・・・静かに祈る人、皆さんは、「それ」が誰かを直ぐにわかる程、互いの個性を認め合い成長してきたはずです。

ぶどう園の良い農夫は、より良い実をつけさせるために枝に「剪定」を入れます。枝を切り、整えるのです。皆さんが出会った辛いことや悲しい時間、これから出会うかも知れない厳しい体験は、成熟した「良い味の実」をつけるために必要な神様からの「剪定」です。その訓練によって得られる「良い味」は、甘味と酸味のバランスが良い、とろけるような甘味、鼻の中に広がる豊かな香り、・・・色々な味があるはずです。誰かを楽しませ、喜ばせる「良い味」はイエス様の愛から得られる「恵みの味」でもあるのです。ですから「良い味の実」とは、イエス様からいただいた愛を实践する人と言えます。良い行いや愛ある生き方を示すことで、イエス様の愛を知っていただき、愛を味わっていただくことだからです。枝の役割は、その大小や見栄えに関らず、幹なるイエス様からの愛を養分として受け取り、その愛を「みえるかたち:実」として実らせることです。その実を食べ、味わっていただくことで、イエス様の愛を分かち合うのです。

わたしは、皆様ひとり一人が「良い味の実」をつけ、出会う人々に届ける「若枝」に成長する、という神様のご計画を信じます。

『卒業生の皆様は、皆様に対する神様の愛を知り、また信じています。神様は愛そのものです。その愛にとどまる皆様は、神様の内にとどまり、神様も皆様ひとり一人の内にとどまってください。』と聖書は教えています。ですから、「わたしたちは言葉や口先だけでイエス様の愛を知っているのではなく、行いをもって互いに誠実に愛し合ひましょう。」(ヨハネの手紙一 3章18節)それは「・・・神様がまず、わたしたちを愛してくださったからです。」(ヨハネの手紙一 4章19節)

「キリストにつながる23本の若枝」の皆様、「神様はあなたがどこへ行っても共におられ、あなたを守り、必ず神様の下へ連れ帰り、約束を果たされるまで決して、決してあなたを見捨てません。」(創世記28章15節)

恐れることなく、新しい一歩を踏み出し、歩み続けてください。



Tokyo San-iku Elementary School

Since 1898

東京三育小学校

校内行事報告

学 習発表会

今年度の学習の成果を保護者の方々にご覧いただく学習発表会。終わった後の子どもたちの感想です。「たくさんの方がいて驚いて全部忘れそうになったけど、前を向いて大きな声で発表できました。」「練習した通りにできた。神様ありがとう。」「家でたくさんほめられました。難しいこともあったけど頑張ってよかったです。」「子どもたちの1年間の学びのエッセンスを保護者の皆さまがご覧になり、その成長を喜んでくださいました。子どもたちにとって、協働して準備してきた経験が心の成長につながり、来年度への備えの機会となりました。



い のちの授業・5～6年生

三育学院大学大学院校舎と東京衛生アドベンチスト病院において5～6年生のための「いのちの授業」を実施していただきました。いのちの誕生・胎の中の成長・出産・心臓の働き・血液の流れなどを医療機器にも触れさせていただきながら学びました。この学びを通して私たち一人ひとり人間には到底なしえない神様の愛の業の最高傑作であり、だからこそ互いに愛し合う必要があると教えていただきました。



卒 業祈禱週

3月3～7日は卒業祈禱週で、総題「23本の若枝」テーマ聖句：ヨハネによる福音書15章5節を掲げました。「神様のご計画に従って歩みたい。」「神様は過ちに気づいた私を赦してくださり良い方向へと導いてくださるお方です。」「イエス様のように誰かのために生きる人になりたい。」「イエス様はご自分のいのちを捨てるほどに私たちを愛してくださっているので、その愛に応える者になりたい。」と語ってくれました。お昼休みには「祈りの時間」をもちました。6年生と下級生が祈り合う姿が多く見られ、特別に祝福された1週間になりました。



6年生と下級生が祈り合う姿が多く見られ、特別に祝福された1週間になりました。

卒 業生を送る会

恒例の5年生が企画・実施する「卒業生を送る会」。学習発表会やまとめの学習が多くある短い3学期のなか、5年生たちはお世話になった6年生のために、楽しみながら1月から飾りつけの準備、6年生へのインタビュー、プログラムの組み立てとシナリオ作りなど、一人ひとりが多岐にわたる役割を担い、協力して、創り上げました。また1～5年生が準備した感謝のプログラムには6年生への「ありがとう」と離れがたい思いが詰まっております。6年生の目には涙があふれました。



卒 業式

3月16日(日)第76回卒業式を挙行し卒業生23名を礼拝をもって送り出しました。卒業祈禱週と同様に「ヨハネによる福音書15章5節」を卒業式のマottoとして掲げました。神様を愛し、神様の樹の幹につながり続けてくれることを願います。これから先も一人ひとりに最善を与えてくださる神様のご計画があります。神様を知っている卒業生たちが神様が与えてくださった新しい場所で、神様の愛の実をさらにたくさん実らせ、出会う人々とその愛の実を分かち合い、平和をつくり出す人として光り続けると信じます。卒業式終了後は在校生全員が卒業生と挨拶をし、名残惜しい時間となりました。



3学期も皆様のお祈りに支えられ、無事に終えることができました。ご支援を感謝いたします。また、23名の卒業生も神様の祝福のうちに巣立ちました。4月6日まで春休みとなります。2025年度もどうぞよろしく願いいたします。